

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075300139
法人名	社会福祉法人 久住会
事業所名	グループホーム 敬寿
所在地	福岡県鞍手郡小竹町大字勝野1751番地 (電話) 09496-2-7688

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成20年3月6日	評価確定日	平成20年5月1日

【情報提供票より】 (平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 4.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	333 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成20年2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐野医院(内科) 丸野クリニック(心療内科) 加藤歯科(歯科) 加藤整形クリニック(整形外科)
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠賀川の中流域の閑静な丘陵地に事業所は位置している。2階建てケアハウスの1階に1ユニット設置されており、法人が運営する軽費老人ホームが隣接している。法人は地域では古くからゲートボールを通じた地域交流を図っており、今では三世代に渡っている。ケアハウスに併設されている事業所であるが、母体施設に頼らず独立した運営を行い、町や地域との連携・交流も積極的に取り組んでいる。日常的に職員が学ぶ機会の確保に努め、また、カンファレンスへ家族の参加を促したり、家族主体で事業所の広報紙の作成を行う等、家族からの意見反映にも積極的な取り組みが見られ、日々ケアの向上に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の課題について職員で話し合い、改善計画シートを作成している。家族の関わりを深めるために各種行事に参加を求めたり、馴染みの品の持ち込みを家族へ提案したり、広報紙を地域へ配布する等、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について職員会議等での検討を行い、全職員で評価の意義を理解し、取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催し、取り組み状況等について話し合っている。委員からの意見や提案を聴取し、家族のカンファレンスへの参加、成年後見制度の研修開催、広報紙を家族主体で作成する等、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族の意見、不満、苦情等が表せるよう、家族会や来訪時、カンファレンスの際に個別に意見、不満を聴く等、機会づくりに努めている。苦情窓口は重要事項説明書に明示し、説明している。家族から出された意見・要望については、職員で検討を行い、シーツ交換や口腔ケア等、適切に対処し運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣幼稚園・保育園、小・中学校と交流し、学校行事へ参加したり、慰問や職場体験を受入れている。また法人全体で、古くからゲートボールを介して地域住民との地域交流を図っており、今では三世代に渡っての交流がある。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に「地域との交流」という地域密着型の視点が加わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は管理者と職員が協働で作成し、朝礼で毎回唱和を行っている。また、理念の実践に向けて職員教育を行っている。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣幼稚園・保育園、小・中学校と交流し、学校行事へ参加したり、慰問や職場体験を受入れている。また法人全体で、古くからゲートボールを介して地域住民との地域交流を図っており、今では三世代に渡っての交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について職員会議等での検討を行い、全職員で評価の意義を理解し、取り組んでいる。また、前回評価の課題について職員で話し合い、改善計画シートを作成している。家族の関わりを深めるために各種行事に参加を求めたり、馴染みの品の持ち込みを家族へ提案したり、広報紙を地域へ配布する等、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、取り組み状況等について話し合っている。委員からの意見や提案を聴取し、家族のカンファレンスへの参加、成年後見制度の研修開催、広報紙を家族主体で作成する等、サービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、行政の「高齢者対策委員」の役を担ったり、町内6事業所を集めた「グループホーム推進会議」を開催するよう行政に働きかける等、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進委員の紹介により、講師を招いて職員対象に権利擁護研修を開催し、制度の周知・理解を深めている。また、家族会で家族へ制度のパンフレットを渡して説明を行う等、制度について周知を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	カンファレンスへの家族参加を促しており、その場で心身面や生活状況の報告を詳細に行っている。参加できない家族については、来訪時に書面で報告している。また利用者一人ひとりのアルバムを作成し、写真を用いて暮らしぶりを伝えている。金銭管理については、月1回、金銭出納帳を明示し、収支を明らかにしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、不満、苦情等が表せるよう、家族会や来訪時、カンファレンスの際に個別に意見、不満を聴く等、機会づくりに努めている。苦情窓口は重要事項説明書に明示し、説明している。家族から出された意見・要望については、職員で検討を行い、シーツ交換や口腔ケア等、適切に対処し運営に反映している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で職員の異動があるため、最小限に抑えられるよう、法人の施設長の理解を得ている。やむを得ず職員が交代する場合には、十分な引継ぎ期間を設け、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、教育訓練、資格取得等、職員の自己実現が保証されるように、安心して働ける職場環境を目指している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>管理者は、人権教育・啓発活動に取り組み、内部研修として「人権擁護」の勉強会を全職員で実施している。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人で研修委員会を組織し、日常的に学ぶことが推進している。職員は希望する外部研修を受講できるよう機会が与えられ、研修内容については全職員が共有出来るよう伝達研修で報告する仕組みがある。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者及び職員は、交流を通じて質の向上をさせていくために、町内6事業所を集め「グループホーム推進会議」の開催を行政に働きかける等、ネットワークづくりに積極的に取り組んでいる。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に自宅訪問を行っている。本人が安心して納得できるよう体験利用を通じて事業所の雰囲気に馴染んでから、本人がサービスを開始することができるように工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から日常的に調理や園芸等を教えてもらったり、相談に乗ってもらったりする等、お互いに学び、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや希望の把握に努め、支援している。また、家族等から家族会やカンファレンス時等に情報を得るようにし、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族及び職員の意見や気づきを反映した個別具体的な介護計画を作成している。介護計画は、利用者・家族の要望を記載し、家族の署名、押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、また利用者の状態変化や状況に応じて、介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際は、本人・家族・医療機関と連携を図り、早期退院へ向けて取り組んでいる。また、できるだけ事業所で継続した生活ができるよう主治医・連携医と相談し、柔軟に対応している。退院後、医療機関への通院が必要であれば、送迎等を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時に、かかりつけ医への受診や付き添い等、本人・家族の希望について話し合い、それぞれ柔軟に対応している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、必要に応じて利用時に家族と話し合っている。また、折に触れて利用者・家族の意向を聴きながら、事業所としての方針を、主治医、家族、かかりつけ医・職員で話し合い、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りや尊厳を大切に、言葉かけや対応に配慮している。外来者への対応については、管理者が職員に指導し、個人情報の取り扱いを徹底している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、基本的に利用者の意向を優先している。ゲートボール、散歩、買物等、その日その時の利用者一人ひとりの希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、食事の準備や片付けを一緒に行っている。また、同じ食卓で共に食事をしながら、さりげなく介助をし、会話を楽しんでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴支援をしている。また、入浴拒否の利用者に対しては、その原因を探る等し、臨機応変に一人ひとりのタイミングや意向、希望に応じた入浴ができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の個性や特技を把握し、また、利用者の生活歴や趣味等を活かして、調理や生け花等、役割や楽しみごとを支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況や希望また天候等に配慮して、概ね毎日の散歩、希望に応じて随時買い物に出かけ、また月1回ドライブや外食をする等、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関を施錠していない。全職員は鍵をかけることの弊害を理解している。職員は利用者の外出傾向等を把握しており、見守り等を行っている。また、併設施設に見守りを協力依頼している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。非常用に飲料水を備蓄している。	○	今後は非常時に備え、事業所だけの訓練ではなく、地域住民への呼びかけ、参加協力を得ながら避難訓練等を実施してほしい。また、非常用食料の準備をしてほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。献立は利用者の嗜好や状態に配慮して、栄養士が作成している。月1回の誕生会等の行事時は、利用者と職員が共に考え、献立から買物、調理まで事業所内で行っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は床暖房が整い、落ち着いた色合いや雰囲気、家庭的雰囲気に配慮している。不快な音や光はなく、採光も適度で居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の馴染みの家具や小物等を持ち込み、季節の花や家族の写真を飾っている。その人らしい個性を尊重し、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※ は、重点項目。